

坂東会

坂東会
100 周年
2021

知ってこう！坂東流 第7回「会員番号1番は三津之丞お師匠さん」

坂東流名取の全記録が記載されている坂東流台帳。もともと古い台帳の会員番号1番に記されているのが、坂東三津之丞のお名前です。今でも古いお師匠さん方からは「お師匠さん」「三津之丞お師匠さん」と親しみを込めて呼ばれ、お師匠さんが残した『楠公』『俄獅子』『新曲浦島』『静と知盛』などの振り付け作品は、流儀の大切な曲として伝えられています。歌舞伎の振付師としても活躍し、坂東流の隆盛の屋台骨を支えた方が三津之丞お師匠さんです。

明治29年木挽町生まれ。父親は志賀山伊之助という踊りの師匠で、志賀山流を代表する実力者でした。家が近くにあった縁で明治42年、13歳の時に七代目三津五郎のもとに歌舞伎役者として入門。



秀丸改め三津之丞として
名題昇進した頃（大正10
年頃）



『雷船頭』の雷。船頭は七代目三津五郎

坂東秀丸として主に女形で舞台に立つとともに、六代目菊五郎の『鳥羽絵』でネズミを演じ大評判を取るなど踊りの方でも実力を発揮します。七代目の舞台の後見、代稽古をつとめ、七代目の絶大な信頼を得て昭和8年に役者を廃業し舞踊家、振付師として独立。その披露公演は帝国ホテルで催されました。

七代目は三津之丞お師匠さんを「秀さん」と呼び、振りを受け取る時は座布団を敷かず、「秀さん、ここはどういう意味だね。何を現しているんだね」と振りの一つひとつを丁寧にお聞きになったそうです。またお師匠さんも生涯七代目をお慕いし、七代目の芸談をよくお話しされました。

さて、お師匠さんのお人柄は？次号ではお師匠さんの楽しい「素顔」をご紹介します。

目次

家元あいさつ・家元情報	2～3
家元講習会のご報告	4～5
100周年記念舞踊会のお知らせ	6～7
東西ゆかた会のご報告とお知らせ	8～9
鳴物講演会のご報告	10
船森稻荷役員参拝のご報告	11
伝承 坂東流	12～13
青年部活動報告	14
チャリティー舞踊会番組	15



家元 坂東 巳之助

去る九月に、九州支部と関西支部よりお声かけをいただき、家元講習会を開催致しました。

九州は『棒しばり』より太郎冠者の踊り、関西は『河千鳥』の前半部分をそれぞれお稽古し、また妻・彩と倅・緒兜も同行させて頂いたこともあり、大変有意義な日々となりました。

九州では過去の講習会で『浦島』などをお稽古した経験から、お若

い方や高齢でもお元気な方が大勢いらっしゃる事を踏まえ、『棒しばり』を題材に身体を目一杯使って踊ることに眼目をおいてお稽古させて頂きました。

私にとって初めての講習会となった関西では、平成25年の関西チャリティ舞踊会で当時病に伏せておりました父の代理で私が踊らせて頂いた思い出もあり、

父の振付作品である『河千鳥』を選びました。演目が決まった後に決定した開催場所が、歌詞に登場する「万寿寺」と同じ東福寺塔頭である「正覚庵」であり、正しくご当地といった趣の中でのお稽古は、不思議なご縁を感じました。

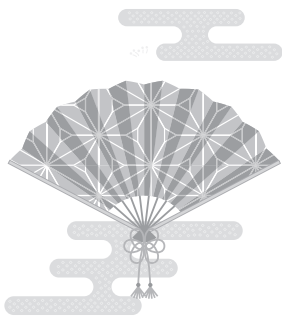
そんな二つの講習会を通して私は、人に教えるということの難しさ、大切さを改めて実感致しました。他者に技術や知識を伝える際

には、それらを自身に取り込む時以上の理解が必要です。

歌舞伎役者として毎日のように舞台にたたせていただき、多くの経験をさせていただいておりますが、まだまだ若輩の身では人にものを教えるという機会はそう多くはありません。

貴重な機会を与えて下さった九州支部、関西支部の皆様、ありがとうございました。

今後も各地域の皆様にお目にかかれる事を楽しみにしております。



京都南座 座頭興行 『NARUTOーナルトー』

東京に続き早くも南座で興行された『NARUTOーナルトー』役員による総見を行いました。

感動の『NARUTOーナルトー』

坂東 三勇寿

昨年より京都南座にて、家元が座長で『NARUTOーナルトー』に出演されるとお聞きし、それ以来、楽しみにして参りました。

観劇当日、ワクワクした気持ちでいざ南座へ…。大勢の観劇者にビックリ！大変な人気でした。

幕が上がりますと、今まで南座では見たことのないような異様な空間が広がりました。その舞台でナルトは、縦横無尽、闊達に走り回り、また静かな部分では、辛いところからスタートしたナルトが、みんなに認められ活躍するまでが描かれ、何の予備知識もない私にも、内容が良くわかりました。

物語が進み、特にクライマックスの激流のシーンは、舞台とは思えない臨場感と迫力があり、また、舞台と客席が一体化され、ど肝を抜かれました。家元の迫力ある立ち振る舞いに、今

までの歌舞伎にはない感激と、内なる感動を覚えました。

幕が下りた後の劇場内は割れんばかりの拍手が、鳴門（ナルト）の渦巻きのごとく鳴り止まずでした。

私の気持ちも興奮していました。我家に着くまで『NARUTOーナルトー』の世界に入ったままでした。

とても素晴らしく、とても有意義な一日を過ごさせていただきました。誠にありがとうございました。



京都南座総見に参加して

坂東 三与穂

6月10日、私達熊本、三与昭社中の一行は、主役で家元が出演されている『NARUTOーナルトー』を観劇しました。若者向きで年配にわかるのかなと心配していましたが、その迫力にすぐに引き込まれていきました。最

家元情報

●新橋演舞場

12月6日(金)～25日(水)

昼の部・夜の部通し上演

新作歌舞伎

『風の谷のナウシカ』

ミラルパ／ナムリス

●浅草公会堂

1月2日(木)～26日(日)

新春浅草歌舞伎

●御園座

4月4日(土)～26日(日)

新作歌舞伎

『NARUTOーナルトー』

再々演決定!!

後に川の中で隼人さんと戦うシーンは、手に汗握る真に迫るものがありました。アツという間の3時間でした。2度3度と繰り返されるアンコールの中、その度に家元が颯爽と笑顔で中央まで出ていらっしゃいました。私達はとても誇らしく、新しい時代を予感させるこの舞台に立ち会えたことがうれしく、家元の今後のご活躍を心から願ひ、一泊二日の旅を終えました。



中国・九州支部 関西支部

家元講習会のご報告

家元による講習会が9月7、8日に九州で103名が参加し、9、10日に京都では30名が参加し行われました。中国・九州支部では『棒しばり』を関西支部では『河千鳥』を講習していただきました。



家元講習『棒しばり』に参加して

坂東三喜代

九月のまだまだ暑い中、家元とご家族お揃いで中国・九州支部講習会にお出かけいただきました。今年は福岡八幡ホテルで『棒しばり』の太郎冠者の講習をしていただきました。

総勢103名を5グループに分け、グループ毎に家元自ら踊って、体の使い方、足、腰の動きを丁寧にご指導していただきました。講習会でなければ、直接ご指導いただくことなど叶わないことです。

若い人から年配の人まで熱心にお稽古を受け、呼吸の仕方、歌詞や振りの意味もよく理解し、まさか自分が踊れるようになるとは…と喜んで帰りました。家元のお姿やご指導に感謝と感激でいっぱいです。

また、講師の京弘女先生と智和先生に、汗ダラダラになるまで何度も一緒に立っていただき本当に感激です。緒毘くんも多勢の中で泣くこともなく、みんなが手を叩くと一緒に手を叩いて、なかなかの大物だなと、一同喜んでおりました。

遠いところまでお出かけくださり本当にありがとうございます。これからもご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

二ヶ所の家元講習会に参加して

坂東三導由

残暑の厳しい9月の7、8日の2日間、中国・九州支部の講習会が北九州の八幡で開催されました。

演目は『棒しばり』でお家元がお手本を見せてくださり熱心なご指導をしていただきました。動きが激しくついていくのに必死でしたが、体で表現すること、心を込めて踊ること等とても大切なことを教えていただいた充実した2日間でした。

引き続き京都の講習会も参加させていただきました。京都の演目は先代お家元振付の『河千鳥』でした。舞台で使われる扇を拝見し振りの意味も教わり、目の前に情景が浮かんでくるようでした。

2つの会場で有意義な講習会を受講させていただき坂東流の素晴らしさを再確認いたしました次第です。また懇親会には家元の奥様や緒毘ちゃんも出席していただき、和やかな時間を一緒に過ごすことができました。

今回の講習会が今から楽しみです。お家元、講師の先生方、本当にお疲れ様でした。心よりお礼申し上げます。

坂東志寿女

ここの正覚庵本堂は、綿花貿易で財を成した白洲文平氏の白洲屋敷の一部を移築したものです。戦後の吉田茂首相の懐刀として活躍した息子、白洲次郎も住んでおられた往時が偲ばれる居室で、講習後、お家元を囲んで食事をいたしました。

遠方よりお越しの皆様には暑い中大変だったことでしょう。初めてお目にかかる皆様方とお話ができ、なごやかな雰囲気での講習会でした。ありがとうございました。

坂東 緋紗

9月の京都、東福寺塔頭正覚庵にて開催されましたお家元講習会では、『河千鳥』をご教授いただきました。亀に對する特別な愛情を公言されるお家元の幅広い見識が盛り込まれた作品であり、故にスツポン特有の動きやリズムに苦勞もいたしましたが、日頃からあらゆるもののへの観察力と探究心を大切に過ごすごことで自分自身の深い理解、



東京開催決定

お問い合わせ、お申し込みは事務局まで。
(先着順、定員になり次第締め切り)



坂東会ホームページでは一般の方向けの情報としてお稽古場検索や公演情報、演目紹介などを掲載しています。また、パスワードを入力して利用する会員専用ページを設けてから1年が経ちました。会員ページでは会報のバックナンバーや会報に掲載しきれなかった写真などもカラーで掲載しています。坂東会ホームページをぜひお役立てください。



坂東会創立百周年 記念舞踊会

坂東会

100周年
2021

坂東会創立百周年記念舞踊会の演目が出揃いました。(順不同)
詳細は次号(5月1日号)に掲載いたします。

日時 令和2年9月12日(土)・13日(日)

場所 国立劇場 大劇場

主催 坂東会

入場料 8千円

長唄 花かつみ

長唄 秋の色種

長唄 松の緑

長唄 藤娘

清元 長生

長唄 女伊達

常磐津 長唄 男女道成寺

清元 お祭り

清元 豊後道成寺

常磐津 お夏狂乱

義太夫 女夫人形

清元 幻腕久

長唄 船揃

清元 女車引

舞踊会のお知らせ

お知らせ

・坂東富起子舞踊公演

ふきの会20周年公演

日時 11月6日(水)

午後1時半開演

第1部

説経節・義太夫・上方落語
で綴る舞踊劇「狐葛の葉」
原作『しのだづま考』より

第2部

ふきの会20周年公演
ふきの会
国立劇場小劇場

入場料

6千円
(1部2部入替なし)

・若みどり會勉強会

日時 11月10日(日)

午後1時半開演

主催

坂東永紫
日本橋公会堂

入場料

無料

・三津時13回忌追善 登喜美会

日時 4月5日(日) 11時開演

主催

坂東登喜美
タワール船堀5階

大ホール

入場料

無料



長 唄	清 元 長 唄	長 唄	義太夫	清 元	長 唄	常磐津	大和衆	長 唄	長 唄	清 元 義太夫	長 唄
寒 山 拾 得	喜 撰	旅	五 人 三 番 叟	保 名	大 江 戸 両 国 花 火	鞆 猿	江 戸 風 流	二 人 道 成 寺	風 流 船 揃	吉 野 山	鶴 亀

常磐津	長 唄	常磐津	長 唄	長 唄	常磐津	清 元	長 唄	長 唄	長 唄	義太夫	常磐津	義太夫
奴 道 成 寺	旅 雀	正 札 附	難 波 土 産	大 阪 万 歳	保 名	伊 勢 参 宮	四 季 の 眺 め	木 挽 町	禿	鶴 亀	猩 々	

会 習 講 曲 験 試 年 2 和 令

・第4回 祐三扇会

日 時 4 月 12 日 (日)
11 時半開演
主 催 坂東祐三扇
会 場 日本橋公会堂
入 場 料 無料

○師範会員の方へ

〓松の緑〓

日時／1 月 19 日 (日)

午後 1 時より

講師／波瑠加・三千梅・蝶

締切日／1 月 10 日 (金)

場所／家元宅

○師範会員の方、これから師範試験を受ける方へ

〓北州・藤娘〓

日時／4 月 11 日 (土) 北州

4 月 12 日 (日) 藤娘

両日午後 1 時より

講師／啓・扇菊・以津緒

締切日／3 月 31 日 (火)

場所／家元宅

●試験を受ける予定の名取さんは
取立師匠と一緒に申し込み
ください。

●各講習会は年一回の開催です。

●ご希望曲を明記し、ハガキ、FAX
またはメールにて坂東会
事務所に申し込みください。



下流の様子



客席に熱気が

7月31日(水)京都市呉竹文化センターにて上方で初となるチャリティーゆかた会を開催しました。
3日前には下流いも行われ、本番に向けての熱気が高まりました。
真夏の暑い中にもかかわらず、大勢の皆様にご来場いただきました。

第一回 上方開催 坂東流 チャリティーゆかた会

上方開催ゆかた会に参加して

坂東 雅静

ゆかた会が故郷京都で行われると聞き、95歳の母に見せたくて桜子先生と相談して『甲子侍』を選び申し込みました。

『甲子侍』は十代目家元に高知の講習会でご指導いただいた曲で、坂東の大切な御祝儀舞の一つですとお聞きしました。難所が多く、私にはまだまだ力不足でしたが、無事踊ることができました。



本番当日、たくさんの方々の力添え、ありがとうございました。

上方開催チャリティーゆかた会

坂東 伊峰

京都でのチャリティーゆかた会で『秋の色種』を踊らせていただきました。

名取試験を控えた高校生の弟子も出演させていただき、私自身もまだまだわからないことが多いなか、下流いの折から先生方・先輩方から普段のお稽古では触れない細かいところや白襟の有無までご指導いただき感謝しております。

第2回 上方開催 坂東流チャリティーゆかた会

日時 令和2年 6月13日(土)

場所 先斗町 歌舞練場

- 申し込み／FAX・E-mail・ハガキ等で、出演者・演目・電話番号を明記の上、坂東会事務所まで
- 出演条件／坂東流門下であること（名取でない方も参加できます）
- 1演目／10分以内
- 出演料／1演目¥46,000（前日下流いあり）
演目数が整い次第締め切らせていただきます。

東西チャリティーゆかた会でお客様にご協力いただきました募金2万8千3百円は「読売光と愛の事業団」に寄付させていただきました。
皆様の心温まるお気持ちに感謝申し上げます。



お勉強させていただくこともたくさんあり、とても良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

ます。



開演前から大勢のお客様



第二回 坂東流 チャリティーゆかた会

8月28日(水)昨年に引き続き日本橋公会堂にてチャリティーゆかた会を開催しました。

今年も大変盛況な会になりました。

第二回ゆかた会出演

坂東 仙紫郎

支度も済み客席で何演目が拝見しているうちに、怖じ気づいてしまいました。家元のご挨拶で場内は引き締まり、ますます緊張、それでも、出演間近に、「ドン」と背中に気合いを入れてくれた仲間。落ち着きました。「よく音を聴き、旅人になって軽く歩く」と心に言い聞かせ『伊勢土産』をなんとか大きなミスを終了することができました。

坂東流の奥深い舞踊には程遠いのですが、良い刺激を受け、これからも諦めずに精進いたします。坂東流で良かったと、改めて思いました。役員の



方々には、慣れない場所です声をかけていただき、ありがとうございました。

常磐の老松を踊って

坂東 映司

この度は御祝儀曲である『常磐の老松』を姉とお勉強させていただきまし

第3回 坂東流チャリティーゆかた会

日時 令和2年 7月4日(土)

場所 日本橋公会堂

- 申し込み／FAX・E-mail・ハガキ等で、出演者・演目・電話番号を明記の上、坂東会事務所まで
- 出演条件／坂東流名取であること
- 1演目／10分以内
- 出演料／1演目¥38,000
演目数が整い次第締め切らせていただきます。

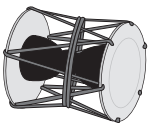


くしたのですが、10分の作品は練習回数を多く設けることができ、師匠から頂くたくさんの指導も落ち着いて吸収できたように感じ、本番は一振り一振りに集中することができました。お支度を、上から下まで自分で整えるのは不安もありましたが、楽屋では、師匠や周りの皆様に助けていただき、緊張しながらも楽しい時間となりました。ありがとうございました。



報告

鳴物と三味線のお話



7月6日(土)、伝統芸能情報館レクチャール室にて「鳴物と三味線のお話」と題した講演会を、参加者71名で開催しました。鳴物は福原百七先生、三味線は柏要二郎先生に講師をお願いいたしました。お忙しい中、坂東流のためならと、快くお引き受けくださいました。

講演会では多くのことを学びました。例えば、ひとつの曲でも流派や師匠によって尺(長さ)や演奏方法が異なることや、舞踊会では立方が正確にきつかけを出してくれないと地方さんは困ってしまうことなど。お話を伺いながら、自分が地方で踊らせていただく時は気をつけようと肝に銘じました。

また今回、実技として初めての試みで、百七先生に「唱歌」を指導していただきました。最初はなかなか難しく、譜に沿って声を出すのが精一杯だったのですが、だんだん慣れてくるとカウントが取れるようになり、良い経験をさせていただきました。

要二郎先生は『新曲浦島』を披露してください、その迫力や卓越した撥さばきに参加者も大絶賛。アンコールに応えて『桶公』を演奏してくださいました。時間はあっという間に経ってしまいましたが、実りある講演会になりました。





三ノ峰・岡本店さん



船

森

稻

荷

役員参拝のご報告

6月9日(日)梅雨入りの間近に迫った伏見稲荷大社に前期役員・現役員17名が集い、三ノ峰下之社に祭られている船森大神を参拝しました。

参拝には家寿子さんもご参加くださり、楼門から1.5km程ある稲荷山の参道を登りました。

境内は勾配の急な石段が続く場所もあり、汗を拭い拭い約1時間かけて三ノ峰へ辿り着きました。

船森大神のお塚前に祭壇を設け、伏見稲荷大社御膳谷奉拝所からお越し下さった神官の小池さんにご祈禱していただき、南座新開場記念新作歌舞伎『NARUTOーナルトー』で座頭を勤められる家元のご健勝と、坂東流のますますの発展を祈り、坂東会として初めての参拝企画を滞りなく行いました。



お塚前の祭壇



船森大神の六角柱のお塚



お塚に奉納された坂東会の鳥居

伝承 坂東流

第三回

一子相伝の道成寺

監修 坂東寿子

坂東流道成寺の特色

七代目は三津江の道成寺を見て「その振りののんどりと、大まかなこと、今の『道成寺』に比べると、はるかに古風な、いい味わいのあるものでありました」と、そのうまさに驚いたそうです。「道成寺で芝居をするのは道行だけですから、役者衆にとっては大切ですよ」と三津江は七代目に口伝しました。道行の出は「何時出てきたかわからないように……嫉妬物ですから気が先へ先へといっているという心から、下半身は真直ぐに、上半身は心持ち前へ、と

奇跡とも思われる経緯で伝承されてきた道成寺。そこには他の演目にも通じる坂東流の良さが秘められています。今号ではその特色について考察していきます。

いっても眼に立つほどではありませんが、その心がけを忘れてはなりません」と七代目は言っています。流行歌を取り入れ、季節の移ろいにのせて、恋する娘の気持ちを表しますが、鐘への恨みが見えつ隠れつする、その変化の妙が踊り手のしどころといえましょう。



三代目三津五郎「京鹿子娘道成寺」文政6年3月中村座
早稲田大学演劇博物館蔵

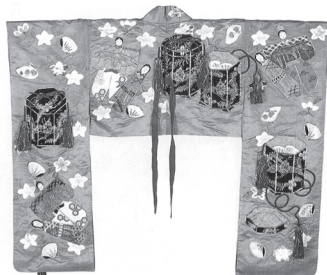
「花の外には松ばかり」は肘をグツと引き、貝殻骨を付けるようにした構えで花道へ向かいます。花道七三で鐘を見ますが、ここは足をかけて舞台の方を向き三歩歩いて鐘を見上げて中啓で指すだけ。入れ込んで振り返って指す振りを見受けますが、振り返りません。また「二つやらずに一つだけ」

「鐘を見るだけ。見込まない」など万事大間で古風に振りがついています。秘伝の巻物に触れた七代目の記述に「恋の手習いなど、只今演っている振りの三分の二くらいしか振りがございません。それがどうして今日のようになったかと申せば、大まかに踊るといことは余程の名人でないと持ち切れないので、自然一手入れ、二手入れして今日のようになつたのだと思います」とあります。七代目は「決まってから同じ格好で待っているというのとは一番みっともないこと。間はどう使ってもいいからきっちり使ってそして最後にピシッとほまるようにする。生み字が大事」と「間」について厳しかったそうです。

能取り物であることから、烏帽子をつけている最中はお能に倣い、かかとで踏みます。道成寺の石段を駆け上がるように花道から本舞台へ行つて決まった後、つま先を上げて左右に振る振りもお能とおなじに外から振ります。かかとで鱗を描くというのは口伝です。その他、「晨朝の響は」で鐘を聴く形をして、テンテンでその眼を上げて鐘を見る。「我も五障の雲晴れて」で雲を晴らしたあとと中啓を反対の肩にあて、まわって、中啓を伏せてトン、スツと横へ持つていく。などの特色があります。そして何より、初めから終いまで鐘に心を置くことを忘れないこ

とが大事です。

二代目坂東三津江着用
「京鹿子娘道成寺」さし込み替襦袢
東京国立博物館蔵



淡紅地立雛と貝桶文様襦袢
恋の手習。で着用

「言わず語らぬ」では、ぐつと氣を変えて、「娘」の嫉妬の心で踊ります。

長きにわたって受け継がれてきた「振り」「型」には、その「振り」「型」から役の心を読み取ることができません。坂東流の道成寺は「娘」の心で踊る。この心を表す振りが恋の手習いでは随所に見られます。例えば

- ・ 出の時、手拭いを持つ手を見せない。
- ・ 手拭いを口にくわえない。手拭いを口にくわえて、くわえた手拭いを肩へかけ、懷手をする振りを三代目三津五郎は非難した。これはもとの『傾城道成寺』の時の振りが残っているのので、『娘道成寺』で娘が手拭いを口にくわえて肩にかけ、懷手をしたのでは娘にならない。坂東流ではくわえた手拭いの両はじをもつて手を合わせて捻り込む。
- ・ 起請誓紙のところは恥じらって後退りしてお辞儀する。へ誓紙さえ偽り

か」というのだから娘は起請誓紙を取り交わしたこともなく、書く振りはしない。だから、恋の手習い…という文句が生きてくる。

- ・ 「ふつつり愠気」で男の人の手を取る振りでは、掴んだ手はそのまま。掴んだ手を反対の袖で抱えない。

- ・ 「殿御殿御」で眉をかくす振りは、お嫁にいききたいというような気持ちで眉をかくす。眉毛をかくす振りであるけれどもそれを見て一目でわかるようにやってはいけない。

- ・ 「女子には何がある」で自分を指すところは人間に一つしかやらない。そのあとののしほ振りでは、若い女のすねた心を表す。

- ・ 「悪性な悪性な」では首は間に合わずににゅうつと振り、手拭いの手を「知れぬ」で三つに開ける。

- ・ 「恋の手習い」では最後の一度だけしか踏んではいけない。「恋の手習いは唄の聞かせどころ、音を立ててはいけません」との口伝から。

また、鞆鼓の段の「我三上山祈り北山」では座って鞆鼓と膝頭で拍子をとる振りが伝えられています。

掲載の振り鼓の段の三代目三津五郎の錦絵からは、拍子に乗って一心に踊っている娘の姿が見て取れます。

以上のように「娘」に徹した振りが伝承されています。「振り」「型」から

役の心を理解したのは「その心で踊る」ことこそ坂東流といえましょう。

また、衣裳においても坂東流の道成寺が「娘」であることが表されています。現在は道行と言えは黒地ですが、元来は赤で、七代目も十代目も「赤に始まり赤に終わる」という決まりに従い、古風に上も下も赤で演じています。また、三津江の着用した差仕込み襦袢の内、恋の手習いの襦袢は薄紅の地に雛人形と貝合わせの玩具の文様です。そして十代目は振出笠の段で、鶺鴒色と赤の段鹿子に桜の刺繍をあしらった衣裳で演じました。三代目三津五郎初演時の錦絵から工夫をし、可愛らしく作ったそうです。

一子相伝の道成寺の特色から「役の心で踊る」「間、生み字を大事にする」という坂東流の真髄が見えてくる気がします。



三代目三津五郎
文化元年3月 中村座

【お詫び】前回発行の会報131号11ページに2ヶ所誤りがありました。写真、誤七代目→正十代目 下段9行目、誤伝承→正初演 ここに深くお詫び申し上げます。

青年部活動報告

(平成30年10月～令和元年9月)

第53回 新年会

平成31年2月9日(土)
場所…かこいや 新宿新南口店
家元にもご参加いただき、部員19名が集まり、お食事を楽しみながら青年部の親睦を深めました。

第54回 総会

平成31年3月3日(日)
場所…帝国ホテル 楓の間
①平成30年度青年部決算・活動報告
②和 cultura はぐくみプロジェクト
平成30年度活動報告

新規メンバー向けの後見結び講習や、都内の小中学校への風呂敷の授業、外国人向けのおどり体験、留学生支援企業協力推進協会での『藤娘』実演等が報告されました。

③係より 新年度講習会・勉強会について

④フリートーク 参加費の設定や係の任期について

⑤部員発表 テーマ「感動したこと」
(以紗緒・里子・喜美野・勝梓)

今回の部員発表は全員に「感動したこと」を書いてもらい、その内容をみて家元に発表者を数名選んでいただく



という形式で行いました。総会には33名が参加し、今後の活動について活発な意見が出されました。

第55回 講習会

令和元年7月13日(土)・19日(金)

場所…赤坂区民センター・浅草喜多八 稽古場

講師…竹本朝輝氏 鶴澤津賀寿氏

内容…「女流義太夫講習会」

女流義太夫の先生方をお迎えし、『義経千本桜』道行の演奏・解説、語りの実技をご教授いただきました。本行と舞踊会用の演奏の違いを実演いただき、踊り手の動きに合わせて演奏の工夫がされている箇所を分かりやすく解説いただきました。実技では、台詞と笑いの部分を稽古し、義太夫独特の声の出し方を一人ずつ丁寧に指導いただきました。

第56回 研究発表会

令和元年9月28日(土)

場所…なかの芸能小劇場

「部員による発表(調べ学習と実演発表)」

- ・長唄新曲『高砂の浦』(光有)
- ・長唄『胡蝶』(映琴・舞花)
- ・長唄『島の千歳』(以緒莉)
- ・清元『青海波』(真三祥・真祥三)
- ・長唄『秋の色種』(岳優貴)
- ・常磐津『栗餅』(雪丸・以紗緒)
- ・長唄『雨の四季』(弘二郎)

青年部第2回目の研究発表会を実施し、それぞれのグループが様々な角度からの解釈で学習・実演発表を行いました。今回は現役部員に加え、OB・OGにもご観覧いただきました。質疑応答では、発表者とフロアが一体となり、稽古場の垣根を越えて意見交換をすることができ、大変有意義な勉強会となりました。



第56回 坂東流たすけあい チャリティー舞踊会を開催します

日時／12月3日(火) 午前11時開演 場所／浅草公会堂
主催／坂東会 入場料／5千円 1部2部入れ替えなし

たくさんの
方々の
ご来場を
お待ちしております
おります



第一部

常磐津	子宝三番叟	利太郎	久三助	香寿音	初優貴	扇弘	香寿真央	鈴梢	真祥三	三乃智	三知弥栄	喜美野
長唄浅妻	船	長唄君が代松竹梅	娘	川	太	娘	金	雁	清元	長唄	かし	よ

第二部

長唄半田稲荷	清元卯の花	長唄汐	大和衆江戸風流	長唄助	長唄鷺	長唄雨の四季	清元玉	清元お祭	清元保	企画番組	竹	長唄
三千踊	亜弥	勝安栄	秀恵美	三千優	三知明貴	一十三	優	佳代輔	勇弥	千扇	扇菊	若梢

第57回 坂東流たすけあい チャリティー舞踊会 出演者募集

令和2年「坂東流たすけあいチャリティー舞踊会」は、浅草公会堂において11月または12月の開催を予定しております。

お申し込みの方法は次の通りです。

※往復ハガキに出演者（芸名）、演目（20分以内）、衣裳付の可否を明記して坂東会事務所まで郵送。

※踊る演目の所要時間を必ず明記してください。

※申し込み受付は令和2年3月1日からとなります。

※演目が重複した場合は先着の方が優先となります。

※演目数が整い次第締め切らせていただきます。

詳細は坂東会事務所までお問い合わせください。



新名取ご紹介

●令和元年9月までの合格者の方々

名取番号	芸名	本名	取立師匠
M-97	喜美史	三代川 淑恵	登喜美
M-98	喜美佳	室 那実	登喜美
M-99	鈴茉莉	本 田 咲子	鈴 富
M-100	鈴椿和	中 邑 晴美	鈴 富
M-101	鈴椿朱	木 村 知子	鈴 富
M-102	舞 華	小野崎 みな	三緒秀
M-103	映 汐	田野井 和歌子	三津映
M-104	寛佳郎	伊 藤 幸綱	寛二郎
M-105	寛 寅	申 橋 大芽	寛二郎
M-106	三兎晴	高 木 晴香	三扇秀
M-107	千代啓	津 脇 慈子	啓
M-108	寿 実	二反田 さとみ	三嘉寿
M-109	伊月貴	植 中 舞華	伊三栄
M-110	比夏乃	栗 本 夏希	比路左
M-111	香寿風雅	林 田 千夏	友女香寿
M-112	香寿風祇	林 田 希夏	友女香寿
M-113	朱 彦	岡 田 篤弥	勝 彦
M-114	扇 綾	仙 石 綾香	扇 菊

名取・師範試験
申し込みについて

試験日／令和2年2月15日(土)
申し込み締め切り／11月末日
申込書を事務所に提出してください。

師範名取ご紹介

●令和元年9月までの合格者の方々

名取番号	芸名	名取番号	芸名
10-72	寿 保祇	10-872	蘭 寿
10-811	香 寿 華	M-91	花 友 以
9-2813	一 丸	M-4	映 桜
10-409	伊真寿々		

結婚おめでとうございます

皆さま 奮って
ご参加ください!!令和2年度
第47回 坂東会定時総会日時／令和2年2月29日(土)午後5時より
会場／帝国ホテル富士の間

●「富士」さくら、修得証書

発行の申し込みについて

申込書の提出締め切り

2月10日・6月10日・10月10日

坂東会会費
納入のお願い

坂東会費未納の方はお早めにお納めいただきますようお願いいたします。

- 師範会員 12,000円
- 一般会員 6,000円

お悔やみ申し上げます

平成三十年七月三十日	坂東 継之助
平成三一年四月三日	坂東 玉 寿
平成三一年四月十九日	坂東 峰 喜
平成三一年四月十九日	坂東 晃奈都
令和元年五月五日	坂東 英 彦
令和元年五月五日	坂東 香寿能井
令和元年六月二三日	坂東 寛 弥 栄
令和元年七月十四日	坂東 三 舟
令和元年九月十三日	坂東 靖三春

ホームページに掲載
登録いただいている皆様へ

今年度の掲載料のお振り込みをお願いいたします。(2020年7月末まで)

●お稽古場紹介

掲載料／6,000円(1年間)
掲載期間／年度末(3月末)まで

●お稽古場訪問

掲載料／5,400円(1回)
掲載期間／約1カ月振込先／みずほ銀行 神田支店
普通口座 1367155

口座名義／坂東会

※振り込み先が変わりました。

※振り込みは「芸名」でお願いします。

坂東会 第一三二号

令和元年十一月一日 発行

編集発行人 坂東会 広報部
発行所 坂東会 事務所

〒101-0047 千代田区内神田1丁目18-11

東京ロイヤルプラザ301号

TEL (03) 351-8111
FAX (03) 351-8111

mail: bandokai@crux.ocn.ne.jp